



職員の負担軽減を目指して

～夜間オンコール代行の活用～

介護職 後藤優斗  
看護職 一番ヶ瀬志乃

1



2

## 夜間オンコールに対する実際の声

介護

- ・些細な事で連絡するのはどうなのか？

(わざわざ深夜帯でできくこと?)

看護

- ・夜間いつ連絡が来るのか分からないことによる『不安・緊張感』
- ・同一利用者の経過報告等で1晩に複数回コール対応するのは大変  
→翌日の勤務に影響してしまう

3

## 夜間オンコール代行導入までの経緯

利用者の生活を24時間365日支援していく中で、特に夜間を担う  
介護職員の不安とオンコールを担う看護師の夜間帯の負担が大きい  
ことが挙げられた。

夜間帯の介護職員の中で夜勤リーダーを毎日決めているが、  
異動・退職で介護経験年数がまだ浅い職員だけになる日が増えた

➡ **更なる不安・負担増**

4

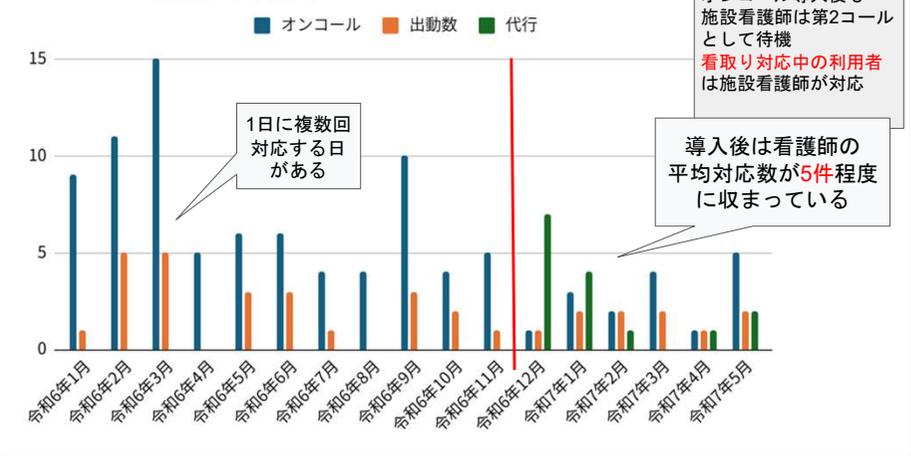
## 夜間帯を想定したデモンストレーション

### 【参加者の声】

- ・何を聞かれるのかわからなかったが、一つ一つ質問してくれるので安心して繋がる
  - ・事前準備が大変になりそう
  - ・時間気にせずかけられるのは、助かる
- 完全導入も視野に入れ、R6.12月に先行導入し、そのまま現在まで利用となった。

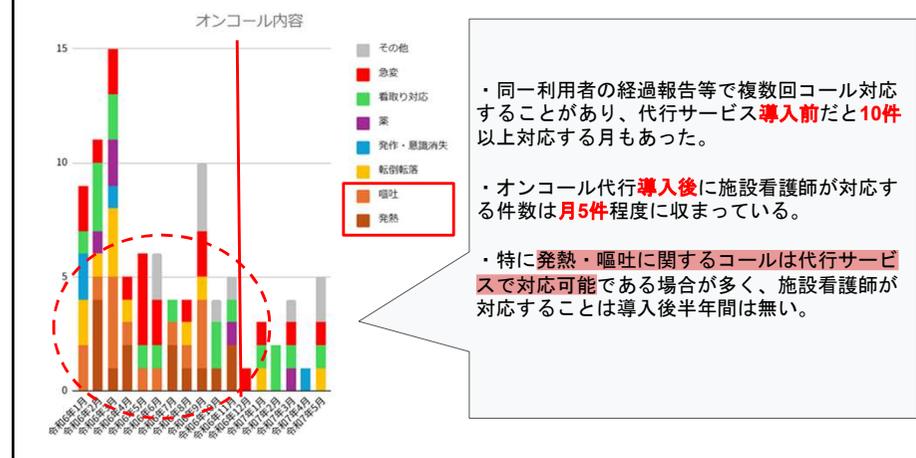
5

## オンコール総数と出勤数



6

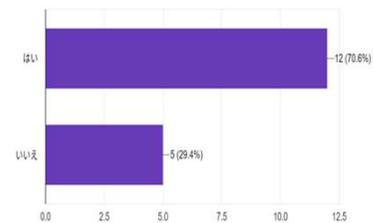
## 導入後の変化(看護師オンコール統計)



7

## 介護職員のアンケート結果①

【オンコール代行利用前】夜間緊急時における対応や課題、不安はありましたか？  
17件の回答

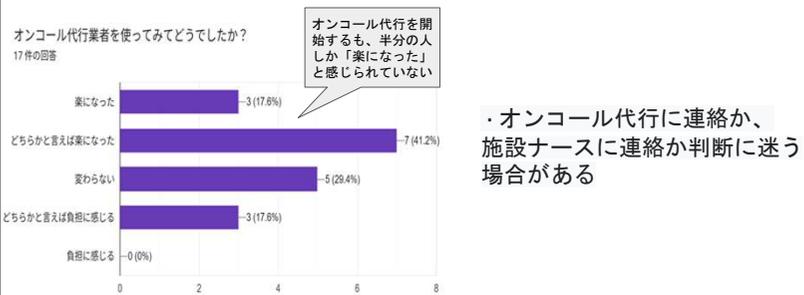


・時間帯や内容によってはオンコールすべきかの判断に迷う事があった。

・ご家族や夜間対応看護師に連絡がつかない時は、介護職員が救急搬送の付き添いをしたため現場の人数が減ってしまっった。

8

## 介護職員のアンケート結果②



9

## オンコール代行導入のメリット

### 【介護視点】

- ・オンコールを気軽にできるようになった。
- ・夜間帯、介護だけで判断に迷う時に些細なことでも電話して聞くことができる。

### 【看護視点】

- ・代行オンコールを導入して、同一利用者の複数対応は減った。

(更なる負担軽減を目指し今後の課題に挙げたことへ取り組んでいく)

10

## 今後の課題

### ・オンコール代行のしくみや活用方法の周知徹底

オンコール代行・施設看護師それぞれの担当範囲を明確にする

### ・夜間に搬送となった場合の対応をどうするか？

オンコール代行からのレポートを搬送時に活用できないか？

### ・介護職員の状況把握・伝達のスキルアップ

オンコール代行を有効活用するには的確な情報、伝達が不可欠

11

ご清聴ありがとうございました！



12